

2008年度 公開シンポのご案内

有機農業推進法が施行され1年が経過しました。農水省も20年度概算要求に5億円の有機農業推進支援費を計上し、民間団体とともに技術の普及に取り組むこととなりました。

新しい時代を迎え、有機農業の飛躍的発展が期待されるころですが、有機農業が危機的な日本農業を救えるものとなるかとなると栽培技術や認証問題、販路の確保、消費者への啓蒙、新たな農業政策の展開など多くの課題があります。そこで、今年度は総会関連行事として3部門に分けて公開シンポを開催することと致しました。

第1部は水田の生物多様性を活用した抑草技術をはじめ、育苗問題、循環型の肥培管理技術の現状と課題について、各地域からの報告を頂き、普及のあり方について討論を行いたいと思います。

第2部は、有機農業推進法による日本農業の再建と有機認証制度の問題点と課題について論議を深めたいと思います。

第3部では有機水田を含む環境創造機能について検討を進めるとともに、環境支払いの内実を討論し、併せてラムサール条約アジア会議や生物多様性国家戦略アジア会議に向けた水田農業の環境再生機能を世界に発信する場としたいと考えております。

盛り沢山の内容になりますが、水田農業のあり方を探求してきた会員諸氏の貴重な体験をもとに親睦を深め、英気を養って頂ければ幸いです。

記

1 日時 2008年2月23日(土)午後1:00~24日(日)午後5:00

2 会場 鬼怒川保養所ホテルたかはら 公立学校共済組合

URL: <http://www.kourituyasuragi.jp/>

〒3212522 栃木県塩谷郡藤原町大原字松原 1421-1

TEL: 0288-77-1227



3 参加費 全日程参加 会員 19,000円 非会員 21,000円

申し込み書

氏名 _____ 住所 _____ 電話 _____

	23(土)			24(日)		
	総会	技術交流	懇親会	宿泊	有機農業と認証問題	環境問題と直接支払
会員	*1000	1000	4000	10,000	*2000	1000
非会員		2000	4000	10,000	*2000	2000

*印は昼食代1000円を含む金額です。ファックス 0285-53-1512 へお申込み下さい。

日程と内容

第1日目（23日）

公開シンポジウム

第Ⅰ部 環境創造型有機稲作の到達点とその普及をめぐる

12:00～13:00 受付・開会あいさつ

13:00～13:30 生物多様性を活かした抑草技術の適用範囲とその条件

NPO法人 民間稲作研究所 稲葉光國

13:40～15:00 事例報告 抑草技術—その成功への道筋に学ぶ—

北海道における抑草技術の可能性—— 榊アレフ 橋部・土井

福島県における抑草技術の現状 —— 渡辺よしの

イネ—麦—大豆による抑草技術 —— 古谷慶一・川俣文人

15:00～16:30 循環型有機稲作の肥培管理

特別講義 土壌診断による肥培管理 小祝政明

16:40～18:00 質疑と総合討論

18:30～19:50 懇親会

20:00 ～ 分散会（技術・政策・環境）

第2日目（27日）

公開シンポ

第Ⅱ部 有機農業を核とした日本農業再建の可能性と課題

9:00～9:30 基調提案 有機農業を核とした農業再建ビジョン

中島紀一（茨城大学農学部教授）

9:40～10:00 有機農業推進法と表示・認証制度の再構築

稲葉光國（NPO法人 民間稲作研究所）

シンポ総合討論 有機農業推進法による地域づくりと有機認証制度をめぐる

NPO法人 民間稲作研究所 稲葉光國

全国有機農業推進協議会 金子美登

山形産直センター 平田啓一

有機農業推進議員連盟 谷博之

JAS有機認証協議会 安井 孝

第Ⅲ部 生物多様性国家戦略・ラムサール条約と環境直接支払い

13:00～14:30 基調提案

① 環境直接支払いの意義と課題 水谷正一

② 生物多様性国家戦略と有機農業 大木一俊

③ ラムサール条約アジア会議と水田決議 浅野正富

14:40～17:00 シンポジウム コーディネーター 岩渕成紀

水谷正一・大木一俊・相馬喜久雄・浅野正富・谷口吉光・原耕造